

1. 職名・氏名 准教授 佐藤 文2. 学位 学位 博士、専門分野 保健学、授与機関 金沢大学大学院、
授与年月 2016年3月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
① 担当科目名（単位数）	主たる配当年次等 老年看護学（2単位 毎年開講） 2年生（2016年度～）オムニバス
② 内容・ねらい（自由記述）	生命力アセスメントモデルの【生活する力】である高齢者の運動と休息、食（栄養）と排泄、皮膚と清潔セルフケアの障害、感覚機能の加齢変化、認知機能を理解したうえで、高齢者の“もてる力”を活かしながら生活過程を整える看護を教授する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）	講義では、講義資料として PowerPoint および配布資料などを活用し、解剖生理から高齢者の特徴のとらえ方、日常生活援助が理解できるよう講義運営を心掛けた。 演習では、臨地実習での実践に直結できるアセスメントおよび看護技術を取り入れた。とくに技術演習には外部講師の協力を得て、学生に質の高い技術を教授できるようにした。また、課題レポートは、演習しながら記述していけるよう工夫をした。
① 担当科目名（単位数）	主たる配当年次等 老年看護学演習（1単位 毎年開講） 3年生（2017年度～）オムニバス
② 内容・ねらい（自由記述）	老年看護学で教授した知識を活用しつつ、具体的な看護計画、看護技術を教授する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）	臨地実習での実践に直結できるアセスメントおよび看護技術を取り入れた。とくに技術演習には外部講師の協力を得て、学生に質の高い技術を教授できるようにした。また、課題レポートは、演習しながら記述していけるよう工夫をした。
① 担当科目名（単位数）	主たる配当年次等 老年看護学実習（4単位 毎年開講） 3年生
② 内容・ねらい（自由記述）	・急性期病院入院中の高齢者とのかかわりとおして対象の生命力を総合的に判断し、生命力を脅かしている誘因や条件の判断と、対象の“もてる力”を引き出しながら生命力を拡大していく看護が実践できる。 ・施設で生活する高齢者とのかかわりとおして、高齢者の理解を深め、生活援助のあり方や生活援助技術の実際を学ぶ。認知症のある高齢者の生活援助のあり方を学ぶ。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）	・講義・演習で習得した知識を活かし、高齢者の生命力アセスメントを通して、高齢者のもてる力を引き出す看護を日常生活の支援を通して学べるよう支援している。また、実践した看護の意味づけを個人指導およびカンファレンスで確認するようにした。 ・施設実習では、認知症高齢者の特徴や講義・演習の内容を振り返るようにした。また介護を要する高齢者を支える看護職の役割、介護者の役割を理解できるようにした。2017年度からは通所リハを利用する高齢者も担当し、送迎を通し、家族との関係・生活環境を観察・アセスメント、および多職種連携について学べるようにした。

<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 卒業研究 (3 単位 毎年開講) 2017 年度 : 4 名、2018 年度 : 4 名、2019 年度 : 3 名を担当</p>
<p>② 内容・ねらい (自由記述) 看護実践から生じた学生の問題意識から関心の高いテーマを研究テーマとする。研究対象が患者あるいはその家族を対象とし、倫理的配慮を重視した。研究の一連の流れ (研究テーマの絞り込み、文献レビュー、研究計画立案、調査、データ分析、結果、考察)、論文執筆、プレゼンテーションを通して看護研究への取り組みを身につける。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 研究テーマの絞り込みの際、必要時、臨床にて研修を行った。文献レビュー、研究計画立案において、倫理審査を受けられるよう指導した。調査の際は、対象者への倫理的配慮ができるよう指導し、データ分析、結果、考察、論文執筆までは、学生と個人面談にて学生が計画的にすすめられるよう指導した。また、発表のための指導は、ゼミ形式で学生が主体的に取り組み、且つ、学生間で互いのサポートができるようにした。</p>
<p>(2)非常勤講師担当科目</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 開講学校名 在宅看護学特論 I 奈良学園大学大学院 看護学研究科</p>
<p>② 内容・ねらい (自由記述) ・在宅における高齢者の脆弱な皮膚・創傷の管理とその課題 ・在宅における排泄管理とその課題 ・皮膚・排泄ケア領域における専門性の高い看護師との連携</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 実際の症例を通してのディスカッションを取り入れた</p>
<p>④ 本学における業務との関連性 (自由記述) 本学の業務に支障のない日程で調整 老年看護学で教授している高齢者の皮膚ケアと関連あり。</p>
<p>(3)その他の教育活動</p>
<p>内容</p>

4. 研究業績

(1)研究業績の公表

① 論文

(タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所について)、掲載雑誌名(号数)、掲載(受理)年月日)

- Dai M, Nakagami G, Sugama J, Kobayashi N, Kimura E, Arai Y, Sato A, Mercer G, Moffatt C, Murray S, Sanada H: The Prevalence and Functional Impact of Chronic Edema and Lymphedema in Japan: LIMPRINT Study, LYMPHATIC RESEARCH AND BIOLOGY, 17(2), 195-201, 2019. DOI: 10.1089/lrb.2018.0080.
- Hasegawa Y, Yoshida M, Sato A, Fujimoto Y, Minematsu T, Sugama J, Sanada H: Temporal muscle thickness as a new indicator of nutritional status in older individuals, 28 January 2019 <https://doi.org/10.1111/ggi.13570>
- Dai M, Shogenji M, Matsui K, Kimori K, Sato A, Maeba H, Okuwa M, Konya C, Sugama J, Sanada H: Validity of pocket ultrasound device to measure thickness of subcutaneous tissue for improving upper limb lymphoedema assessment, Lymphoedema Research and Practice, 6(1), 2018. In press
- Tsuchiya S, Iuchi T, Sato A, Dai M, Imran, Kobayashi M, Sugama J: The changes of chronic leg edema after recumbent position at night in chair-bound elderly Japanese individuals. Lymphoedema Research and Practice, 6(1):1-9, 2018.
- 佐藤文: 下肢の浮腫を視る一看護師の立場から一, 日本フットケア学会雑誌, 15(2), 46-49, 2017.
- Iuchi T, Kobayashi M, Tsuchiya S, Ohno N, Dai M, Matsumoto M, Ogai K, Sato A, Sawazaki T, Miyati T, Tanaka S, Sugama J. Objective assessment of leg edema using ultrasonography with a gel pad. PLoS One. 2017;12(8):e0182042.

② 著書

(タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所または担当ページ)、出版年、出版社名)

- 【ABCD-Stoma ケアを活用したストーマ周囲皮膚のスキンケア】 (Part 2)ストーマ周囲皮膚のスキンケア 炎症性腸疾患がある場合のスキンケア(解説/特集), 看護技術, 65(4): 356-359, 2019年.
- たった20のトピックスで学べる! 創傷・スキンケアの新常識, 担当: Topics 2 褥瘡の予防とケア, 11-17, 2018年, 学研メディカル秀潤社.
- 外来でてこずる皮膚疾患の治療の極意一患者の心をつかむための診療術— 担当; ナースが考えるスキンケアの極意, MB Derma, 275, 125-134, 2018年, 全日本病院出版会.
- 皮膚科医が知らない? 創傷・スキンケアのトピックス, 担当: 総説 褥瘡の予防とケア, Visual Dermatology, 17(2), 120-125, 2018年, 学研メディカル秀潤社.
- 高齢者の皮下出血・スキンケアの予防とケア 担当: 高齢者の脆弱な皮膚のケア～スキンケア(皮膚裂傷)の予防とケア, 臨床老年看護, 25(4), 81-89, 2018, 日総研.

③ 学会報告等

(タイトル、報告学会(大会)名(開催年月日)、共同報告者の有無(共同報告の場合は主たる担当箇所))

- Sato A, Uejima A, Dai M: Lower extremities with oedema and daytime activities among elderly individuals in a nursing home: Preliminary study, 9th International lymphoedema Framework Conference, ポスターセッション, 2019年6月14日, シカゴ.
- Sato A, Uejima A: Characteristics of toe and toenails in elderly people in a nursing home, 第28回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 一般演題(英語セッション), 2019年5月25日, 奈良.
- Sato A: The preliminary study of lower extremities with oedema and the mini-nutritional assessment among elderly people in daycare setting, Students and young researchers presentation, International summer program, 2018年8月27日, 東京大学.

- Sato A: The preliminary study of lower extremities with oedema and the mini-nutritional assessment among elderly people in daycare setting, Workshop “Comprehensive approach for assessing chronic oedema” 8th International Lymphoedema Framework Conference, 2018年6月6日, Rotterdam.
- 佐藤文, 前田朋香: 通所リハビリテーション利用中の女性高齢者における保湿ケアの介入研究—皮膚機能とスキンケアの認識の検討—, 第27回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 2018年5月19日, 札幌.
- 佐藤文: 高齢者における下肢浮腫の実態と課題, 第9回福井県皮膚潰瘍研究会 教育講演, 2017年11月15日, 福井.
- 佐藤文: 危機管理委員会企画 これからの災害対策—東日本大震災、熊本地震の経験からの検討—, 第19回日本褥瘡学会学術集会, 2017年9月14日, 岩手.
- 上畑陽子, 吉田美香子, 峰松健夫, 佐藤文, 須釜淳子, 真田弘美: 超音波検査法を用いて計測した側頭筋厚と栄養状態の関連, 第19回日本褥瘡学会学術集会, 2017年9月14日, 岩手.
- 佐藤文: どう選ぶ? 体圧分散マットレス—マットレスの特徴と機能をよく知ろう!—, 第22回日本在宅ケア学会学術集会 ランチョンセミナー, 2017年7月15日, 札幌.
- Uehata Y, Yoshida M, Sato A, Fujimoto Y, Minematsu T, Sugama J, Sekine R, Kubota N, Sanada H: A change in temporal muscle thickness correlates with past energy adequacy in elderly individuals: a prospective cohort study, 39th European Society for Clinical Nutrition and Metabolism, 2017年9月9日, オランダ.
- 佐藤文, 木村朱里: 高齢者施設入所者の排泄援助タイムスタディ—トイレ介助と床上排泄援助の人的コストの検討—, 第26回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 2017年6月2-3日, 千葉.
- 佐藤文, 村上真咲: 手術にて一時的に排泄援助を受けた高齢患者の気持ちの変化と身体の回復過程の検討, 第26回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 2017年6月2-3日, 千葉.

④ その他の公表実績

(2)学会活動等

学会でのコメンテーター、司会活動 (担当報告名、担当学会(大会)名(開催年月日))

- 第16回日本褥瘡学会中部地方会 パネルディスカッション「チーム褥瘡～One TEAM」座長, 名古屋, 2020年3月15日.
- 第37回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, シンポジウム2 座長, 静岡, 2020年2月8日.
- 第21回日本褥瘡学会学術集会, 教育講演 演者, 2019年8月25日, 京都.
- 国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会第9回学術集会, ランチョンセミナー, 座長, 2019年7月7日, 福井.
- 第28回日本創傷・オストミー・失禁管理学会 特別企画レクチャー 座長, 2019年5月26日, 奈良.
- 第20回日本褥瘡学会学術集会, 教育講演 演者, 2018年9月29日, 横浜.
- 第27回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, シンポジウム 司会, 札幌.
- 第14回日本褥瘡学会中部地方会学術集会, 教育講演 座長, 2018年3月4日, 浜松.
- 第26回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 一般演題 座長, 2017年6月3日, 千葉.

学会での役職など (学会名)

- 日本創傷・オストミー・失禁管理学会 評議員, 理事(2017年度～), 広報委員(2013～現在), 渉外委員(2017年度～), 災害対応委員(2017～2018年度), 財務委員(2017～2018年度), アドホック委員(2017年度～現在), 学術創傷委員会委員長(2019年度～)
- 日本褥瘡学会 評議員, 危機管理委員(2012～2018年度)

- ・日本褥瘡学会中部地方会 世話人 (2017年度～)
- ・日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会 評議員, 規約委員 (2017年度～)
- ・国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会 理事 (2017年度～), 編集委員 (2017年度～)

学会・分科会の開催運営 (担当学会 (大会) 名 (開催年月日)、開催場所)

- ・国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会第9回学術集会 大会長, 2019年7月7日.
- ・第29回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会 組織委員, 2019年6月就任
- ・第28回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会 プログラム委員, 2019年1月就任
- ・第27回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会 プログラム委員, 2018年1月就任
- ・第5回看護理工学会学術集会 プログラム委員, 当日実行委員, 2017年10月14-15日, 金沢.

(3)研究会活動等

①その他の研究活動参加 (参加研究会名、調査活動名 (期間))

②その活動による成果

(4)外部資金・競争的資金獲得実績

2017年度 KF 枠 獲得
 2017年度 科研費 (萌芽) 不採択
 2017年度 特別研究費 A 枠 獲得
 2018-2019年度 科研費 (若手研究) 獲得
 2018年度 KF 枠 獲得
 2019年度 学術集会開催支援金

(5)特許出願

5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
①国・地方公共団体等の委員会・審議会（それぞれの名称、業務内容、担当期間）
②国・地方公共団体等の調査受託等（それぞれの名称、業務内容、活動期間）
③（公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加（それぞれの名称と活動内容、活動期間）
④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動（企業名、活動内容、活動期間） スリーエム・ヘルスケア Webセミナー講師、2019年12月7日。（2020年2月末公開予定）
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 （事業名称及び主催・共催者名、活動内容、活動期間）
⑥その他（名称、活動場所、活動期間） 一般社団法人チーム医療フォーラム MED Japan 一途一心，メインセッション講演「脆くて弱い皮膚からの叫び スキン-ケア」，日本科学未来館，2019年10月6日
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
① 公開講座・オープンカレッジの開講（タイトル名、開催場所、開催日時） <ul style="list-style-type: none"> ・2019年度公開講座 健康は足から！ イキイキ生活するためのフットケア（一般向け），アオッサ，2019年7月20日。 ・2019年度公開講座 褥瘡対策 できてますか？ 今さら聞けない褥瘡ケアの基本と褥瘡対策の仕組み（看護職向け），福井県立大学看護福祉学部棟，2019年8月10日。 ・平成30年度公開講座 肌の健康を大切にするスキンケア アオッサ 2018年7月10日
② 社会人・高校生向けの講座（タイトル名、開催場所、開催日時） <ul style="list-style-type: none"> ・金津高校 開放講義 タイトル：看護は観察から -皮膚を見て 皮膚を護る-，2019年12月13日。
③ その他（名称、活動場所、活動期間） <ul style="list-style-type: none"> ・第25回北越ストーリーマリハビリテーション講習会，実行委員および講師，2017年3月3～5日開催，福井。
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等） （活動内容、主たる活動場所、活動期間）

6. 大学の管理・運営

(1)役職 (副学長、部局長、学科長) (職名、期間)
(2)委員会・チーム活動 ・実習検討委員会：2016-2017 年度 ・県立病院実習担当者会議 担当：2016-2017 年度 ・卒業研究係：2016-2017 年度 ・学部学科内交流 (研究・地域貢献等) 担当：2017 年度~ ・3 年次生 主担任 2018 年度 ・4 年次生 主担任 2019 年度 ・Findlay 大学との国際交流委員 (2018 年~) ・大学院看護学専攻 (博士後期課程) (仮称) 設置プロジェクトチーム委員 2019 年度~
(3)学内行事への参加 (行事名、参加日時) ・オープンキャンパス, 2019 年 8 月 4 日.
(4)その他、自発的活動など (活動名、活動内容、活動期間)